



定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五號十二字 一行五元 五號一行五元
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

霜月寮閑話 (五)

平自警會 白土五郎

業と自然の因果法とはどんな関係があるかこれは大きな問題で私の力では解決の出来ない相談だ、だが普通説くところの業説は自然法を道徳律と潜同させ、善因善果、悪因悪果と方式のやうに都合よく組み立て、因果律を道徳界にとり入れ人間の意志によつてこの因果律は自由になるやうにしてゐるが、自然の因果法は人間の意志に依つて左右されるものではない、そこに業に依る人間生活を三界因果にまで延長して善因善果を説明すること——現在の坊主のやつてゐること——また心の中に、善因善果を求めることになつたのである。

問題は智と悲の問題となりこの兩方面を完全に合致さしめやうとしたのが佛教である。即ち大智大悲の觀音菩薩は抽象したものである。

佛教で言ふところの業を私のやうに考へたのでは一つの理窟になつてしまふ。これは戯論だ、しかし佛教は理窟の遊戯になく、日々の生活の上に生きたものである。業は意識する意識せざるによらず日本民族の間には傳統的に、日常生活の中に喰入つてゐる、これを云々することは戯論になる、ある人が左の如く云ふてゐる、實に味合ふべき言葉だ。

業報がなければ一人の人を殺せと云つても殺せぬ業報あれば千人も殺すべしとあるは因果の理法とか、

○明日の献立 ○朝味噌汁—葱 小皿 やきのり

【晝】ホットケーキ 紅茶 果物

【晩】すきやき鍋 お浸し 春菊

因縁とか、與へられた境遇と云ふやうなことは論理的推理的、妥當的なものでなく、業とか、罪惡とか云ふ

ことは客觀的に解へなく、また他から見て批判すべきものでない、自らの心の中に尋ね這入つて感ずべきものである、つまり人生そのものは深く織り込まれてゐる矛盾に對する直感、ここに業の念があり罪惡觀がなり立つのである。かく考へて初め、業そのものが味解出来る、一つの物語り—固執して解釋したりまたは論理的に業そのものを知らうとするとは木によつて魚を求めると等しい戯論はどこまでも戯論である、戯論を離れて内觀する時そこには未知の世界が現れ、佛の言葉も味解されるのである。

魚清のサービス

たらちりなべ	三	さしみ御飯	二十五錢
ちりなべ	三	吸物付	三十錢
あなごなべ	三	天ぷら御飯	三十錢
親玉ノよせなべ	三	海老天ぷら	四十錢
かきなべ	三	御飯吸物付	三十五錢
ねぎなべ	三	海老天	三十五錢
煮込なべ	三	海老フライ	三十五錢
鳥なべ	三	天井	二十錢
牛なべ	三	親子井	二十錢
豚なべ	三	ちらし五もく	二十錢
かきフライ	二	御子様すし	二十錢
かき酢の物	二	まぐろすし	二十五錢
あんことも酢	十五	鐵火井	二十五錢
		鐵火卷	二十五錢
		好たけ卷	二十五錢
		あなご卷	二十五錢

定食
四品 五十錢
三品 八十錢
七品 八十錢

●徒弟入用
平二警察署裏通り
魚清食堂
電話二六三三

有給社員募集
一、地方擴張ノ爲男女十數名募集ス
固定給ノ外歩合アリ
二、資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス
但シ誠義奮闘家ヲ望ム 希望者ハ
午前中當出張所へ面談アラレタシ
野村生命保險株式會社
磐城出張所 平町長橋町四七
主任 福島 健之

喜多流 謠曲と仕舞の
稽古をお奨め致します
平町田町六九
喜多流 謠曲 舞 白土會
入會隨時 電話一二七番

是非!

御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます

三井質店
平・四電六〇六番

かまよほよ造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

吸入用酸素純度 99%
モノサシ
マス
ハカリ
器量計
体温計
寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局
電話四〇番
寫真材料一式販賣致シマス

死にも狂ひの

各派掉尾の猛運動

違反は少ない模様

政戦もけふ限りとなつた、言論戦は大體今夜限りである、従來の選挙は今夜から明朝までを最も活躍する時とされてゐた、選挙の強調に依り今度は淨化を期待されしに最近の違反續出から見ると、毫も従來の選挙と異なる處がない、従つて死物狂ひの各候補の陣營はまたも今夜を最後の活躍時とし

投票立會人

デリケートな選定が必要

司、内兩省から嚴達

愈々明日の投票日を控へて候補者の死者狂ひの熱戦が展開されてゐる一方、選挙の投票、開票の事務も着々進捗を見せてゐるが投票事務に關し投票立會人として候補者、選挙事務長又は選挙委員が選ばれる時は個々面接の罪を構成し、選挙事務に關係のある區長等が投票立會人となる時は選挙關係吏員が選挙運動をなしたことにたり違反に問はれることに司法、内務兩省の協議が決定、十八日左の如き通牒を全國に發し至急通達せしめることになつた、通牒左の如し

候補者選挙事務長、選挙委員又は選挙事務に關係する者、投票立會人として投票事務に關係する者は、投票立會人となる時は、選挙關係吏員が選挙運動をなしたことにたり違反に問はれることに司法、内務兩省の協議が決定、十八日左の如き通牒を全國に發し至急通達せしめることになつた、通牒左の如し

らざる場合と雖も選挙の自由公正を害するおそれあるに付右の如きものは特定候補者のため投票立會人たらしむる場合はこれを避けしむるやう嚴重警告相成度

村治功勞者

豐間表彰

豊間村では去る十一日の紀元節祝賀式當日納稅衛生その他村治に功勞あつた左記三氏を表彰夫々銅製火鉢一對並に木杯一組宛贈つた
△沼之内區長鈴木留吉氏 (銅製火鉢一對) △衛生區長遠藤仙右衛門氏 鈴木治助氏(木杯一組宛)

組合記念

組合強調週間

来る六日産組記念日に石城産業組合部會は來月六日の産業組合記念日には組合組織の整備擴充を計る爲め郡下各組合に産組記念日強調週間及び組合加入勧誘デー、家族慰安デー等を催し組合精神の高調に努める

陽春のお訪れが

例年よりも早い

八十日振りの暖氣と

小名濱側候所で語る

水道管破裂を隨所に近年珍らしく暴威をふるつた氣候の悪戯も寒明けからぐつとゆるみ出し毎日ぐんぐんと昇つて居り十六日刻は雨夕模様の曇天で昨十八日の平地方は丁度御花見時の様な

十日ぶりの現象で最低氣温も珍らしく氷点上二度五分を示しました勿論これは一時的の現象ですが午前九時から平町住吉屋本店に開く筈であつたが當日の會場は平驛樓上に變更された

平驛の觀櫻對策

臨時列車二本

早くも松ヶ岡へ吸引
假ホーム停車も實施

平驛では未だ消えやらの溜雪を他所に速くも春の人氣者松ヶ岡公園の觀櫻客吸引策に大童べ居たが本十九日具體案が決定したので後藤平驛長は直に上申したがそれに依ると先づ今年は一昨年の一回の臨時列車を四月十九日廿六日の二日平、助川間に運轉し松ヶ岡公園假ホームに停車せしめる外十五日から廿九日迄は上下各列車に車輛を増結し尙平町當局及び關係者とも打合せ引することになつた

最後の審判の日

平町投票場準備なる

平町投票場は廿月投票當日の準備一切を本十九日完了の準備入口に肅正神棚を鎮座して一般有権者の一旅行使の萬全を計る外廿日午前七時を期してサイレン、警鐘を打鳴らす外火花を打ちあげることになつた

星候補

投票當日

演説會開催

餘すところ今日一日となつ

平町不在投票

平町不在投票は九名に於ける今次選挙投票當日不在による不在投票は九名に達した

實務青年協議 三月三日小名濱町で石城郡下の産業實務協議會は三月三日小名濱實業學校に開催各青年學校より男女青年一名が出席し一人一研究の體験發表がある

天候回復して

お米氾濫

共同出荷千五百餘俵
平農業倉庫の共同販賣は來る廿一日行はれるが現在の申込数は千五百三十三俵と云ふ本年最高の出荷で最近までは降雪その他の爲め市場は市荷薄であつたが天候回復と共に急激な出荷が見たもので相場は愈々値下りとなる模様である

明日出發

淡路教諭附添で
福島女子師範學校二部生の

補助金

職紹事業に

入學試験は明二十日より二日間に行はれるが磐女四年生の志願者二十一名は淡路教諭附添へて午前八時三十分平驛發で出發する

渡邊國婦發會

渡邊國婦發會は今日三百五十名を擁し來る廿九日午前九時から福島縣隊區司令部藤井中佐臨席の下に同村小學校で發會式を擧げることになつた

西岸院葬送の際は御丁寧なる御香奠を賜はり且つ御遠路にも拘はらず御會葬被卜御芳志の段奉深謝候就ては拜趨御禮可申述の處混雜中に付き不取敢乍失禮紙上を以て御厚禮申上度如斯御座候

昭和十一年二月十九日
福島縣平町南町七三

親戚總代
男
西丸政雄
西丸辰治
川崎文治
菊地文治

戦慄の血盟暴力團

江戸屋一味逮捕

凶器日本刀等多数押収

平署近來の大捕物

昨十八日午後八時頃平署安藤部長の指揮する刑事隊は内郷村大字宮無職元大衆黨執行委員蒲生正利(三)並に湯本町大字笠井料理業小林亭(三)酌婦と遊興中の同町三函居住無職中尾清(三)を疾風の如く襲ひ逮捕すると同時に外二名を逮捕し日本刀短刀の兇器その他文書多数を押収上げたが右は江戸屋一家と稱する血盟やくざの秘密結社を組織東京方面のやくざ關係と聯絡湯本内郷平方面を根據に恐喝並に婦女誘拐の恐るべき陰謀を畫み第七ヶ條からなる宣言書と題する一味の連判状にしたる血判を押し既に湯本町に於て二件の恐喝事件を働いてゐたこと發覺したもので取調べの進展に連れて續々連判者が檢擧される模様である

酌婦をおとりに

利益を切半しろ」と

料理店を日本刀で脅迫

(別項)平署が檢擧した江戸屋一味佐賀縣杵島郡福富村生れ當時住所不定無職九州の時こと久原時次郎(三)湯本町三函中尾清(三)同所二二稻田實(三)内郷村大字宮浦生正利(三)の四名は九州の時こと久原時次郎が東京方面を喰ひつめて湯本町に來町すると同時に同志を糾合、東京市内の某暴力團並にやくざ團と文書を以つて聯絡江戸屋一家と稱する暴力團の秘密結社を構成

一味中に

元無産黨員

起訴猶豫中の蒲生

日本刀、短刀その他の凶器を持ち込めて脅迫ヨシ子とミツ子の前借々棒引きさせ上將水は抱主と井戸屋一味で前記兩女から得る利益を切半することの證書を脅して無理矢理書かせたもので他にも誘拐、恐喝等餘罪相當多数、上るべく平署では一味殘黨の檢擧を急いでゐる

判定は何れに?

山崩の原因調査

被害者仙台鑛山監督局に申請

(既報)内郷村大字綴字板宮澤農山崎美隆(三)方難小山が崩壊住家並に土蔵を破壊埋没した原因に就いて平署で調査中であるが技術者の調査に依らざれば眞理判明とまで行かず爲に被害者側では警炭の地卜採掘の影響と見做して居り警炭側は坑道の分布状態から推してかゝることは絶對なしと

明日の天気
同様に晴れ
今夜は晴れ
今日 明日 天気

今晩の部

- 後六〇〇 子供の時間 琵琶 兒童劇「都鼠と田舎の鼠」
- 後七二〇 講演「選挙」
- 後七五〇 講演「選挙」
- 正最後 十分間「木村匡」
- 後八〇〇 立體漫談 山
- 後八〇〇 浪花節「憲法發布の祝日」津田清美
- 後八、五〇 連續講談「鼠小僧」(第一席)神田伯治
- 後九三〇 時報「ニュース」
- 明日の話題 氣象通報
- 番組預告

懲役二年

偽書伯玉齋に

氏家檢事か求刑

偽書伯玉齋東京市板橋區大谷口町居住竹田由次郎(五)の公判は昨十八日正午少憩後引續き中島判事係り氏家檢事立會、酒井辯護士列席の下に開廷されたが午前中事實審理を了したので直ちに檢事の論告に入り「その行爲は大膽不敵にして全國に三萬餘圓、多額を詐取し尙改悛の情を認められず」と峻烈な論告ありた

春の行樂には

観梅旅行

春は水戸の観梅からと平驛では来る廿三日早くも観梅團體を募集して出發するが汽車賃は二割引で各種のサ

明日の部

- 前七〇〇 基礎ドイツ語講座(一三) 武内人造
- 前七、三〇 朝の修養一莊子の教(四) 松村介石
- 前一〇、三〇 家庭講座「發育中の子供の食物」
- 香川昇三
- 後八〇〇 獨唱 管絃樂
- 中川牧三他大阪桃谷より
- 後八、五〇 小學生尋問の國語の時間お話し「名古屋城」小栗鐵太郎
- 後二、四〇 小學生尋問の國語の時間「全閣」銀閣
- 中村直勝他(京都金閣寺及び銀閣寺より)
- 後六、〇〇 童話劇「その後のらくろく」
- 長谷山雛菊音楽會
- 後六、五〇 趣味講座「選舉異風景」尾坂與市
- 後七、三〇 講演「類雪の話」鷲谷瀧雄
- 後八、〇〇 箏曲 富崎春昇他
- 後八、二〇 長唄「連獅子」富士田新藏他
- 後九、〇〇 連續講談「鼠小僧」神田伯治
- 講中參拜、團體參訪等がある

ペロリ

三升を平げて

老婆に暴行

平町田町洋商大崎一郎(三)は十八日朝同町五丁目飲食店菊セイ方に至り知り合ひの同所新川町無職三留ウメノ(五)と一緒に酒を飲んだが、酒を始めて午後三時頃まで三升餘の酒を平げた

都市對抗の

籠球大會

福島縣體育協會主催の縣下都市對抗籠球大會は來月五日郡山第二小學校コートで催されるが出場チームは福島、若松、郡山、平、白河の五チームであるが平チームの陣容は體協石城支部の強力メンバーで固め必勝を期して猛練習中である

簡易保険の

健康相談

仙臺通信局簡易保險課囑託醫士醫學博士は左の日割で郡下各地に健康相談所を開

- 夏井村(廿五日) 平 廿六日
- 草野(廿七日) 綴 廿八日
- 江名(廿九日) 植田
- (三月一日) 勿來(三月二日)



（神上殿上）
悟道軒圓玉（作）
丸尾至陽（書）

五一 萬之助切腹す

桂小五郎は内田萬之助を
有備館の一間に伴れて参つ
て

小「死んではいかんぞ、腹
を切つてはいかんよ」
と申しさけてそこを出や
うとすると、萬之助が
萬「これから何うなります
か」

小「こゝを立退くがよい夜
に入るを待つてのされるが
よろしう」
萬「しかしこゝを立ち退く
にいたしまして、旅費の
用意が——」

小「それは手前が調達いた
す、貴公は水戸の者とのこ
と故一先づ國許にもどるが
よからう、とも角も旅費そ
の他の入用品は手前が整へ
るであらう、かならず短慮
なことをなさるな」

とくれいも申し聞けて
そこを出て勘定方の來島又
兵衛のもとに出て來た、こ
の來島は藩の會係、金を調
達するためにこゝに参ると
又兵衛は不在です
小「これは困つたな、何處
へ行かれたな」

○「用事がございましてち
よつと出ましたが、行の
ことは申して参りません」

小「さうか、何時ごろ歸る
であらうな」
○「そのほど判りません
が多分、今日はお戻りにな
るまいと存じます」
これを聞くと柱も失望し

考へながら有備館の前ま
で來ると會つたのは伊藤俊
輔、後の伊藤博文公、それ
に野村和作、後の野村靖君
小「お、伊藤、宜いところ
で會つた、イヤどうも面倒
なことが湧き上つて困つて
ゐる」
伊「それはどういふ事だ」
小「坂下門の義黨の一人内
田萬之助といふものが訪ね
て参つたよ」
伊「内田の名は聞いて居つ
た彼は水戸の浪人だとのこ
とだが」
小「さうだそれが参つてか



たが、何とかせねばならぬ
いろ／＼考へてゐる内にだ
ん／＼刻限はのびて來るば
かり、したがつて居敷内は
いよ／＼騒しくなつて來た
小「何うも困つたな、何と
かいたさねばならぬが」

ういふことを申しした」
伊「ハ、ア今度の義舉にお
くれた故腹を切ると——」
小「左様、しかしあれほど
の人物を殺すはおかしい、ま
た俺のやうなものでも武士
と思へばこそたづねし参つ

たものだ、人生意氣に感ず
それ故さあ腹を切れといつ
て犬死をさせるもふびんそ
こで立ち退かせることにし
たがその旅費の工面に困つ
て居る、今來島のところへ
参つて金を借りやうとした
が折悪しく不在だ、何うし
てよいかと大いに心をいた
めてゐる、貴様は金をもつ
て居るであらうな」
伊「それは所持して居る」
小「えらいな、どれほどあ
る」
伊「金二朱（十二錢五厘）
小「二朱といへば一兩の四
分の一だ、錢にして、八百
それには旅費には不足だ、
野村はいくら持つてゐる
か」
野「百疋ほど持つて居りま
す」
小「伊藤より餘分だ、二人
ともその金を出せ、それへ
俺が足してそれを旅費とい
たさせ、今宵の内に立出つ
させることにいたさう」
伊「その内田はあなたのと
ころに居るか」
小「俺のところには置くは危

険であるから、成るべく人
目にふれぬやうにと、有備
館の一間に閉じ込めて置い
た」
伊「それでは内田に會ひま
せう」
とそこで三人揃つて有備
館に來て内田萬之助の控で
居る一室に入ると、こは如
何に内田は腹を割き返す差
添へにて咽喉を斜に貫いて
前に倒れてゐる、四邊は蘇
芳をながしたやうな血です
羽目にまで血が飛び散つて
ゐる、イヤおどろいたは柱
小五郎です、三人と顔を見
合せてやがてちつと死體を
見つめました。

店主が店員	を連れて行	か	正	正	正	レ	ス	ト	サ	ロ	ン
			シ	シ	シ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
			イ	イ	イ	酒	酒	酒	酒	酒	酒
			堂	茶	茶	場	場	場	場	場	場

平・田町
電三五二番

藤沼醫院
平町・紺屋町
電話五〇七番

木村病院
平町新川町十九
電話一六四番

夜
診
腸胃
病性
皮膚科
性病科
花柳病科
内科
胃腸病科
専門
院醫性病腸胃村松
(番七〇一町南町平)

耳鼻喉科専門
大和田醫院
平町南町一六(電話一七〇番)

百貨品
福島縣平町二丁目
西村屋藥舖
藥師 鈴木堅助
電話三三番
振替(東京六・二九九
仙臺一・二〇一)

お年始に……
鯉節
魚問屋
商榮盛賀志
(三一電)目丁平